

福島県 ホープツーリズム

人材育成研修向けガイドブック

(企業・行政機関・団体等)

Fukushima Hope Tourism
Corporate Training

福島で感じる希望^{ホープ}。

それは明日の成長の原動力。

震災・原子力災害の

被災地域をフィールドとした

新しい研修プログラム——

ホープツーリズムとは

世界で類を見ない「複合災害(地震・津波・原子力災害)」を経験した唯一の場所、福島県。
ホープツーリズムは、複合災害の教訓等から、持続可能な社会・地域づくりを探究・創造する
福島オンリーワンの新しいスタディツアーです。

3つの特徴「見る」「聞く」「考える」



**施設見学、フィールドワークから
ありのままの姿を体感**

持続可能な未来を担う新しい取組。
長年の避難……。報道だけでは伝わらない“光と影”。その光景が、福島の
「今」です。

**復興に向け果敢に
チャレンジする人々との”対話”**

前へ進もうと果敢にチャレンジする人々が、福島にはたくさんいます。そうした人々との対話から、多くの刺激や気づきを得ることができます。

**震災・原子力災害の教訓を
未来(社会・地域・日常・自分自身)にどう活かすか**

震災や原子力災害から発生した問題は、「福島だけの問題」ではなく「日本社会や地域が抱え、解決すべき問題」という視点に立ち、自分たちがどのような未来を創っていかたいかなどについて議論します。

なぜ「福島」で「人材育成研修」なのか

福島は社会問題の先進地であり、未曾有の大災害の中で、その解決に尽力している企業が多数存在します。そのノウハウや戦略は、今後の日本企業が持続的に存続し続ける新しいモデルといえます。「地域創生」と「企業と人の成長」はつながっており、創生に向かう福島の企業からは、繁栄や成長のヒントが得られると言えます。

⚠️ リスクマネジメント

💡 問題解決・課題解決

👥 コミュニケーション

🏢 CSV・CSR

🌱 環境配慮

🤝 ダイバーシティ

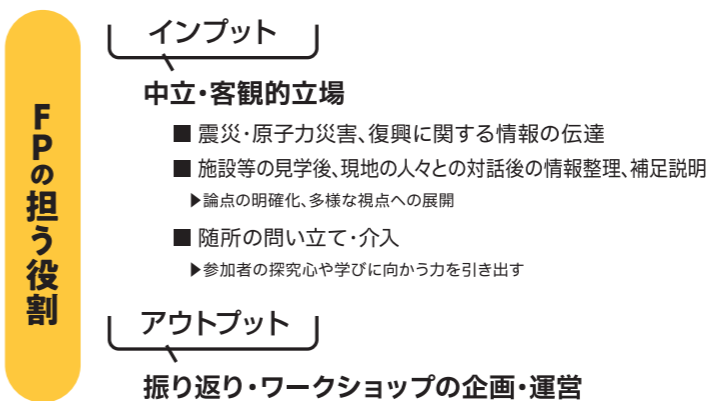
実施団体例

- 株式会社日産クリエイティブサービス
- 東京商工会議所
- パナソニックオペレーショナルエクセレンス株式会社
- 人事院(国家公務員初任者研修)
- 鹿島グループ企業
- 環境省(福島、その先の環境へ。)
- 産業人クラブ(日刊工業新聞社)
- 福島県庁職員研修課

Point_1

フィールドパートナー(FP)が多角的な視点でアテンド

ホープツーリズムの研修には、アテンドやファシリテートを担当する「フィールドパートナー」が同行します。1日ごとの振り返り(リフレクション)や、最終日のワークショップなどを通し、中立・客観的な立場で参加者の成長を促します。



Point_2

導入 ワークショップ ... 事前学習からアウトプットまで効果的に「考える」仕組み

オンライン事前学習

ツアーに入る前に、震災・原子力災害の基礎知識(福島県の概要、被害状況、復旧状況の推移等)を解説。

1日の振り返り(リフレクション)

毎日、振り返り(リフレクション)を行い、疑問や気づきなどを共有することで情報を整理。

アウトプット

テーマに合わせたケーススタディやワークショップで、ひとりひとりが社会を担う当事者としての意識を醸成し、成長を促します。

Goal --> 未来志向で持続的な 企業運営視点と社会人意識を醸成

未曾有の大災害に直面した福島では、人材や技能の奪い合いではなく、補い合うことで前進する、連携型の運営構造が成り立っています。ホープツーリズムの人材育成研修は、持続可能な企業運営のヒントをみつけ、より良い社会を実現する人材の育成を目指します。



参加者の声

原発事故は、電力業界だけの問題ではない。あらゆる企業に生じ得る重大事故のリスクについての意識を学ぶことができ、幅広い業種に親和性がある研修。

現実を直視して、そこからの解決策を真剣に考えて解を見出す。その姿勢が福島にはある。日本の企業には、やると決めたらやり遂げる力があると実感した。

見学施設 福島県にしかない、福島県だからこそ始まった取り組みがあります。



出典：東京電力ホールディングス



提供：環境省

東京電力 福島第一原子力発電所

事故の概要と廃炉の進捗を現場で学ぶ

事故を起こした発電所構内を専用のバスで視察。また東京電力の社員から、事故の概要と廃炉の進捗の説明を聞くことで、理解を深めます。(東京電力「廃炉資料館」のガイド付き見学も可能。)

発電所構内では、原子炉建屋(1~4号機)やALPS処理水などを実際に視察。前例のない事故から福島を復興させるべく、最先端技術で挑む廃炉の現場で、東京電力や関連企業の取組を知ることができます。



福島ロボットテストフィールド

未来をつくる研究・実証拠点

浜通りの産業回復のための国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」により、南相馬市に整備された、フィールドロボットの一大開発実証拠点です。



フタバスーパーゼロミル

特許取得の新技术

岐阜県に本社を置く擦糸工場。地域再生のため、双葉町の産業団地にショッポ、カフェ併設の工場を設立。良質な糸やタオル製品を双葉町から世界に発信しています。



ワンダーファーム

農業でチームビルディング

農作業を体験をしながら、震災後の活動や挑戦について対話。リーダーシップやチームワーク、ソーシャルマインドを養い、チームビルディングとしても有効です。

中間貯蔵施設

原子力災害の被害の大きさを実感する場所

除染で取り除いた土壌等を最終処分までの間、安全かつ集中的に貯蔵するための施設。構内見学では約16km²の広大なフィールドの一部をバスで周回し、取組の全容を知ることができます。

構内には東京電力福島第一原子力発電所を遠望できるポイントや、震災後からそのままの建物なども残っており、立地の経緯や住民との合意形成などの運用プロセスを、施設関係者の説明付きで知ることができます。



東日本大震災・原子力災害伝承館

展示と生の声で知る震災の全体像

複合災害の記録やそこから得られた教訓、そして復興の歩みを国内外に伝え、将来へ引き継いでいくためにつくられた施設。館内の映像や展示などの豊富な資料から、震災・原子力災害直後から現在までの経過・復興の歩みの全体像を学ぶことができます。



【震災遺構】浪江町立請戸小学校

爪痕の中に見いだす希望の光

校舎は津波により半壊しましたが、迅速な判断と避難により奇跡的に犠牲者は出ませんでした。県内初となる震災遺構として、震災の脅威や教訓とともに、防災意識を高めることを目的として、被災当時の姿を保存しています。

「宿泊施設で復興の軌跡を体感」



復興の象徴 アスリートたちの聖地

Jヴィレッジ

サッカー日本代表の合宿も行われた、日本初のサッカー・ナショナルトレーニングセンター。原発から20kmの境目に位置し、震災直後は原子力災害の対応拠点として使用されていました。2019年4月に全面再開を果たした、復興のシンボリック存在です。

「ご当地グルメや特産名産を満喫」



「常盤もの」

福島県沖の潮目の海で水揚げされる魚介類は「常盤もの」と呼ばれ、高い評価を受けてきました。

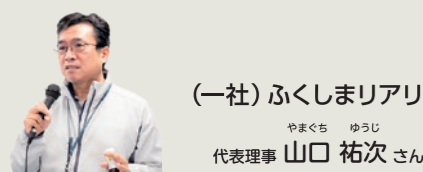
「なみえ焼そば」

極太麺に特製ソースがよく絡むソウルフード。今では福島県の代表的なご当地グルメのひとつです。

「凍み餅」

冷え込む福島県の中山間地ならではの伝統保存食。こんぼう葉(オヤマボクチ)の風味がくせになる逸品。

復興に向け果敢にチャレンジする人々



(一社) 福島リア

やまぐち ゆうじ
代表理事 山口 祐次 さん

「想定外」を「想定」するために

震災当時は双葉郡内の事業所で事業管理(総務・人事・経理等)に従事。その後、社外内で起こる様々な「想定外」への対処に奔走。その実経験や、直面した問題の数々を知ることで、経営者や管理職のリスク管理の視野が広がります。



会澤高圧コンクリート(株)

あいざわ よしひろ
代表取締役社長 会澤 祥弘 さん

脱炭素社会に向けて業界をリード

浪江町に「福島RDMセンター」を設立。自己治癒コンクリート、ドローン、3Dプリンターに関する研究・開発・生産を行っています。会社見学や事業説明を通して、最先端の技術力と、経営者や現場社員のイノベーションマインドを感じることができます。



浅野燃糸(株)

あさの まさみ
代表取締役社長 浅野 雅己 さん

双葉町で燃糸業界の未来を紡ぐ

日本の燃糸業の起死回生を図るべく、新しい技法で燃糸を開発。数々のピンチを乗り越えて今日を迎えた沿革からは、経営者の判断力と突破力、そして社員やその家族への強い思いを感じることができます。



とみおかワイナリー

えんどう しゅうぶん
代表取締役 遠藤 秀文 さん

再生と創出 ワインでまちづくり

ワインを活用した富岡町の再生と、地域全体のにぎわいの創出を目指しています。人口減少や産業衰退の地域課題を解決する運営方針は、地域創生と企業成長のつながりを考えるモデルケースとも言えます。



(NPO) 富岡町3・11を語る会

あおき よしこ
代表 青木 淑子 さん

崩壊と創世の間で

震災後に分断されたコミュニティの再生の難しさを体感しながら、震災語り部として活動。相手の立場に立った物事の捉え方の重要性を知ることは、コミュニケーションのあり方を考え直すきっかけになります。



SSK行政書士事務所

ささき くにひろ
代表 佐々木 邦浩 さん

震災の経験は防災にとどまらない

震災以降は避難所の運営から仮設住宅建設、富岡町災害復興計画(第二次)の策定に奔走。避難所での共同生活ルールを策定するワークショップでは、防災のみならず課題の発見と抽出やダイバーシティのあり方について思考を深めることができます。

テーマ別 ワークショップ

テーマ リスクマネジメント

対話を用いた組織開発について考える経営者層向けワークショップです。福島第一原発の視察、東京電力社員との対話では、企業が担う社会的役割について思考を深めることができ、組織の「リスクマネジメント」や「持続可能な組織のあり方」を考えるきっかけになります。

福島第一原発事故をケースとしたロールプレイング

原発事故の公式な調査書を元に、そこに至る経緯や判断を知り、当時自身がその場に在籍していた場合にとるべきだった行動を仮想します。「組織にとってのリスクとはなにか」を見つめ直し、その学びを自らの業務にどのように反映するかを考えます。



原発事故の調査票の内容

福島第一原発立地の経緯

震災直前に懸念されていたリスクと想定対応策

事故原因の追及

ワークの流れ

福島第一原発事故の事実をインプット

「組織にとってのリスクとはなにか」を考える

「リスク」に対して各自が取るべき行動・マインドを考える

テーマ BCP(事業継続計画)

災害を想定したBCP策定を検討するリーダー層向けワークショップです。災害や過酷事故を経験した組織と対峙することで、組織が担う役割（業務、金融機能、従業員の生活保障など）を幅広い視点で整理することができます。自社のBCPを、福島で検証する機会につながります。

災害時事業運営シミュレーション

災害発生時の組織の初動緊急対応や応急対応、平常化までの事業運営を、実例を交えながらシミュレーション。対外的（クライアント、関連組織、金融機関）な対応のみならず、対内的（従業員やその家族）な対応に必要な備えや意識を考えます。



シミュレーションのシーン

<初動緊急対応>
災害発生から数日間

<応急対応>
災害発生から事業再開まで

<平常化へ向けて>
事業再開から平常運行まで

ワークの流れ

従業員や設備の安全確保、従業員の避難・帰宅の指示等はどうするか

顧客フォロー、生産管理、金融関係の業務対応はどうするか

社員とその家族の安全・安心の確保、地域に根差した組織づくりのためには

テーマ 課題の発見と抽出

社会や組織の問題・課題を解決するプロセスを学びます。様々な場面で発生し得る問題を想定し、課題に変換して向き合う力を養います。また、平常時に構築しておくべき人間関係やビジネスマインドを醸成することが組織活性化につながります。

避難所ワークショップ

震災発生時の避難所を舞台に、避難住民の立場で様々な問題に向き合い、避難所での共同生活に必要なルールを策定するワークショップ。組織や社員がもともと持っていた既存能力に加えて、福島での研修により得た新しいスキルを掛け合わせることで、広く深い視野で課題解決力を磨きます。



課題解決のプロセス

想像力
起こりうる事象を想像

分析力
問題を階層ごとに丁寧に分析

対話力
チームで解決策を導き出す

ワークの流れ

避難所で発生するトラブルを予想

避難者のペルソナに沿って、問題を深堀り

避難所のルール策定・検証

テーマ サステナビリティ

サステナビリティや組織として向き合う必要がある環境配慮について学びます。再生可能エネルギーの導入促進とともに、事業者にはCo2排出量削減が求められています。組織として対応すべき環境対策意識を身に付けます。

環境配慮ワークショップ

環境問題の基礎的な理解からはじまり、組織が求められる環境への負担軽減策を検討します。エネルギー問題で大きな影響を受けた福島県だからこそ、環境へ配慮した新しい事業計画の実例を参考にしながら、自社でも運営可能なエコなPDCAサイクル策定を模索するワークショップです。

関連項目

環境マネジメント(EMS)

ESG

カーボンニュートラル

コージェネレーション

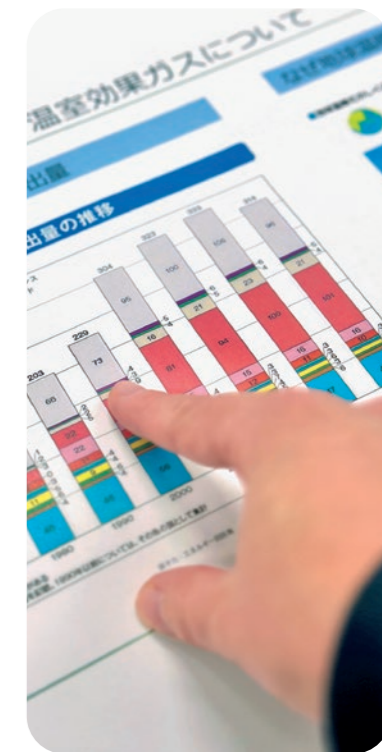
サプライチェーンマネジメント

ワークの流れ

環境問題の基礎的な理解醸成

自社のCO2排出量を見る化

環境面・経済性から考える行動の定着と継続的なPDCAサイクルを模索



主要都市からのアクセス

東京から

- 電車利用
 - ・東北新幹線
東京駅～郡山駅(約1時間20分)
 - ・常磐線(特急ひたち)
東京駅～いわき駅(約2時間30分)

札幌から

- 飛行機利用
 - ・新千歳空港～福島空港(約1時間20分)

函館から

- 電車利用
 - ・北海道新幹線
新函館北斗駅～仙台駅(約2時間40分)
 - 仙台駅～福島駅(約20分)

大阪から

- 飛行機利用
 - ・伊丹空港～福島空港(約1時間10分)
- 電車利用
 - ・東海道新幹線+東北新幹線
新大阪駅～郡山駅(約4時間5分)

福岡から

- 飛行機利用
 - ・福岡空港～伊丹空港～福島空港(約3時間)
 - ・福岡空港～羽田空港(約1時間30分)
羽田から電車もしくはバスを利用し福島県へ
 - ・福岡空港～仙台空港(約2時間15分)



企業や組織の **公開中**
人材育成研修PR動画 約7分



現地の人々や体験者のコメントを交えたPR動画です。
実際のツアーシーンもございますので、ぜひ、ご覧ください。



生の声
思い

研修をご検討の方はこちら

福島県観光物産交流協会では、ホープツーリズムに関するコンテンツの集約、企業様の学びのニーズへの対応、旅行会社様の商品造成・ツアー催行をサポートする現地手配機能を兼ね備えた「総合窓口」を設置しております。平日～2泊3日など、ご希望に合わせた研修プランを提案いたします。

ワンストップ窓口

公益財団法人
福島県観光物産交流協会 観光部
ホープツーリズム・教育旅行 推進部門

✉ hopenotourism@tif.ne.jp

☎ 024-525-4060 (8:30～17:30 ※土日祝日を除く)

🌐 <https://www.hopenotourism.jp/>

🔍



※本誌掲載データは2024年12月現在のものです。